

「イエス様をお迎えする場所を備える」

(マタイによる福音書 3:1-12)

救い主イエスの誕生の道備えのために遣わされた洗礼者ヨハネは、「悔い改めよ」と、メシア=救い主の到来に備えるように人々に呼びかけました。主イエスをお迎えするためにはどのような備えが必要なのか、ヨハネが示します。

「天の国は近づいた」というヨハネの宣言は、主イエスによって神の国の到来が開始されることを伝えるものでした。主イエスを通して、神はこの世界に介入し、神の愛をわたしたちに伝えます。この時にあって、ヨハネが求めた悔い改め、回心とは、自分の内面に目を向けて反省することよりも、今すぐにも訪れようとしている神の国の訪れに目を向け、自分の生き方をこの神の出来事に合わせることです。それは、来たるべき主イエスをお迎えする場所を自らのうちに作る、ということです。主イエスをお迎えするなら、そこに神の愛が満たされるからです。ヨハネは罪の告白と洗礼を促しました。罪とは、神と離れて生きる人間と神との間に生ずるズレです。このズレがあっては、主イエスが目の前に現れても、そこに神の思い、愛を受け取ることができません。ですから、この救い主の到来を目前にしている今、このズレを認め、洗礼によって歩みを神の方向へと真っ直ぐに向ける必要があることをヨハネは示し、人々に求めました。

荒れ野のヨハネのもとには、ファリサイ派やサドカイ派の人々も訪れました。過酷な環境である荒れ野は、人々を飾り立てているものを剥がし、むき出しの人間の姿をあらわにします。ヨハネはそれらの人々に向かって「蝮の子らよ、我々の父はアブラハムだなどと思うな」と言います。

「アブラハムの子ら」とは、自分たちは選民で、救いが約束されていると、ユダヤ人たちが誇って使う言葉でした。しかし、神は石ころからでもアブラハムの子孫を起こすことができ、血筋は何の役にも立たないとヨハネは言います。こうして荒れ野のヨハネのもとを訪れたすべての人々が裸にされ、罪を告白し、洗礼が施されます。そして、人々の心はこじ開けられ、来たるべき救い主をお迎えする場所がそれぞれのうちに備えられます。

ヨハネは、来たるべき方の洗礼は、「聖霊と火」によるものだと言います。ヨハネの呼びかけに応え、罪を認め、自らを開き、主イエスをお迎えするなら、わたしたちは主イエスの洗礼により、罪の殻は燃やされ、聖霊によって新たな命が授けられます。